

徳島県立小松島高等学校 業務改善アドバイザーによる研修会

モデル校での取組
業務改善アドバイザー派遣事業

平成30年8月10日(金)
13:30~



まず、研修会開催にあたり、校長先生を中心に学校が抱える課題等について洗い出しを行った。

小松島高等学校が抱える課題について

- <課題1 教員の勤務実態の把握について>
- <課題2 行事や取組の精選・分掌業務の軽減について>
- <課題3 会議の精選等について>
- <課題4 放課後の部活動と自主学習の時間制限について>
- <課題5 情報共有化・可視化・マニュアル化について>
- <課題6 環境の整備について>
- <課題7 教育力の向上について>

これらの課題を中心に意見交換をしました。

今後の取組の方向性として

完全退校時間の見直し ※課題4

生徒に時間管理能力をつけるためにも、現在の設定では遅すぎる。

退勤時間の宣言 ※課題1・5

勤務時間意識を高める。メリハリのある勤務をするために、退勤時刻を表示。

ペーパーレス会議 ※課題5・6

紙媒体が多すぎる。印刷の手間を省くため、環境保護の視点からもペーパーレスを推進するべきではないか。

取組の精選・委員会の削減 ※課題2・3

だんだんと増えてきている状況。あまり開催していない委員会もある。構成メンバーも含めて、再構築する必要がある。

などがあげられました。

今後は研修会に参加した教員を中心に、学校全体で取り組んでいくこととなります。

講師

文部科学省業務改善アドバイザー
兵庫県教育委員会教職員課
主任管理主事兼人事・業務改善班長 小川秀雄 氏

出席者

管理職
松高未来のためのまなびプロジェクトのメンバー等
事務局職員

兵庫県の豊富な事例と教員経験をもとにした助言をいただきました。

研修会で出た主な意見

意識の問題

- ・教員でも意識もばらばら。なぜ働き方改革をする必要があるのかというレベル。
- ・自分で面倒見るから遅くまで残っていてもかまわないという考え方の人もいる。
- ・改革は国や県が行うもの。その方向性がわからないなか、現場で工夫をと言われても難しいのでは。

アドバイザーから、教員は勤務時間の意識が希薄である。知徳体すべての教育を担う日本の教員の難しさはあるとしても、民間企業では限られた時間で成果をあげることが求められます。教育界だけ聖域でよいのでしょうか。教員を志す人のためにも教員の勤務環境はファジーではいけない。



アドバイザーからの助言

**できることはたくさんある。
思い切ってやってみることが大切。やってみて検証すればよい。**